

教育目標 「自ら きたえる」

意欲をもって学び続ける力・自分を豊かに表現する力・良好な人間関係を築く力



～10/25(金)「ひびきの集い」全校歌練習～



新潟市立関屋小学校 学校だより

しおない

令和六年十月二十九日

第362号

ひびきの季節

校長 川又 健司

今年も、「ひびきの集い」の季節がやってきました。上学年の子供たちは、キャスト、音楽隊、ダンス・コーラス隊、大道具、小道具のグループに分かれ、準備や練習に熱が入ります。また、下学年もそれぞれの学年が担当する場や、全校で歌う部分などの練習を頑張っています。

見て回って、今年特に感じるのには、子供たちの表情のよさです。「自分たちでよいものになりたい」という意欲が伝わってきて、私も当日がとても楽しみです。

私が調べたところでは、最初に「ひびきの集い」という言葉が登場するのは、平成四年頃のように「平成四年度 研修のまとめ」という冊子に、次のような記述がありました。

当校は二つの集会を実施してきました。一つは歌声のひびきあいを楽しむ音楽集会であり、もう一つは言葉のひびき合いを楽しむ群読の集会であった。これらを「ひびきの集い」として一本化し、毎週土曜日朝会時に実施している。

(原文のまま)

当時はまだ、土曜日が完全にお休みではありませんでした。登校日では

ある毎月第二・第四土曜日に、全校朝会と同程度の短い時間で、音楽発表や群読などを楽しむ会をしていました。また、「内容は歌と詩を中心とする」としながら、「身体表現、絵画や掲示物等も取り入れる」とありました。

歌と群読だけだった集いに劇が加わるのは、平成十五年度からです。「シユプレヒコール劇」として、「ごんぎつね」を行っていました。「シユプレヒコール劇」というのは、詩や物語の群読を中心に、時折歌や劇が混じる形式の劇で、現在のものとは少し様子が違っていたと思います。

今から二十一年前ですので、当時の六年生は今、三十三歳でしょうか。保護者の中にも、経験した方がいらっしゃるかもしれません。

その後、現在のような音楽劇となり、低・中・高学年、上・下学年のように分かれて演じられていたものが、平成二十四年度に全校で一つの劇を作り上げる現在の形になりました。

今年も衣装ボランティアの皆様にご多大なる御協力をいただき、着々と準備が進んでおります。十一月二日の本番には、ぜひ足をお運びいただきたいと思っております。

～2年生町探検 10月3日(木)～

生活科の学習で、関屋小学校区に探検に出かけました。10月は2回目の探検でした。子供たちはそれまでの探検からもっと調べたい施設やお店で見学やインタビューをしました。



～ハルビン市青少年使節団学校訪問 10月16日(水)～



中国のハルビン市より小学生10名が来校し、6年生と交流活動を行いました。クイズをしたり日本の遊びを楽しんだりして交流を深めました。

【子供たちの感想より】

- ・今回の交流会で、日本の遊びをしたとき、ハルビンの子があやとりを知っていたので、中国にも同じような遊びがあるんだとびっくりしました。
- ・中国語で話すことはできなかったけど、一生懸命伝わるように喋ったり通訳さんを通してハルビンについて教えてもらったりしました。
- ・漢字の意味クイズで日本の漢字と中国語の漢字の意味は同じなのだろうと予想していましたが、本当は全然違うことが分かって面白いと思いました。
- ・昔の遊びが楽しかったです。中国の子たちも楽しそうにしていたので、うれしかったです。

11月の行事予定

2	土	ひびきの集い
5	火	振替休業日
7	木	全校朝会
8	金	にじいろ音楽祭(3・4年参加)
11	月	学校運営協議会
13	水	市小研時程
28	木	個人懇談(希望制)～12/3まで

